

2025 年 12 月 8 日 青森県東方沖の地震の評価

- 12 月 8 日 23 時 15 分に青森県東方沖で、深さ約 55km、マグニチュード(M)7.5 の地震が発生した。この地震により青森県で最大震度 6 強を観測し、負傷者が出るなどの被害を生じた。また、この地震により青森県三八上北で長周期地震動階級 3 を観測した。
今回の地震により、岩手県久慈港観測点で 0.7m、北海道浦河観測点で 0.5m（いずれも速報値）など、北海道から福島県にかけての太平洋側で津波を観測している。
- 発震機構は西北西―東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、発震機構及び震源の深さから陸のプレートと太平洋プレートの境界で発生した地震と考えられる。
- G N S S 観測によると、今回の地震に伴って、青森県下北郡東通（ひがしどおり）村の東通 2 観測点が東方向に約 9 cm 移動するなど、青森県を中心に地殻変動が観測された。
- 今回の地震活動は、12 月 9 日 14 時までに最大震度 1 以上を観測した地震が 15 回発生するなど、継続している。M7.5 の地震の発生以降、9 日 14 時までの最大の地震は、9 日 06 時 52 分に発生した M6.4（速報値）の地震である。
この地震活動は、「1968 年十勝沖地震」（M7.9）の震源域内の北部で発生し、活動域の南側は、「平成 6 年（1994 年）三陸はるか沖地震」（M7.6）の震源域に隣接している。さらに、その南東側では、11 月 9 日の三陸沖（M6.9）の地震活動が見られる。
- 今回の地震は、地震調査委員会が「日本海溝沿いの地震活動の長期評価（平成 31 年 2 月 26 日公表）」で想定していた「青森県東方沖及び岩手県沖北部」の領域で発生する「ひとまわり小さいプレート間地震」（M7.0～M7.5 程度）であり、30 年以内に発生する確率はⅢランク（高い）に該当する。これは、海溝型地震の中では、地震発生確率が最も高いものと位置づけられる。なお、「平成 6 年（1994 年）三陸はるか沖地震」は同領域の「ひとまわり小さいプレート間地震」とされ、また、「1968 年十勝沖地震」は同領域の「プレート間巨大地震」（M7.9 程度）とされているが、どちらも、30 年以内に発生する確率はⅢランク（高い）に該当する。
- 今回の活動の周辺では、過去に、大地震発生から 1 週間程度の間と同程度の地震が続発したことがある。1943 年の青森県東方沖の地震（M7.1）発生後、約 2 日後に、M6.6 の地震が発生した。そのため、地震発生から 1 週間程度、最大震度 6 強程度の地震に注意するとともに、さらに強い揺れをもたらす地震が発生する可能性もあるので注意が必要である。特に地震発生から 2～3 日程度は、強い揺れ

をもたらす地震が発生することが多くある。

- 今回の地震により、北海道の根室沖から岩手県の三陸沖にかけての領域において、大規模地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっていると考えられるとして、北海道・三陸沖後発地震注意情報が気象庁から発表されるとともに、内閣府からとるべき防災対応の呼びかけが行われている。巨大な地震により、強い揺れや大きな津波が想定される防災対応をとるべき地域にお住まいの方は、政府や自治体からの呼びかけに従っていただきたい。

＊：海溝型地震における今後 30 年以内の地震発生確率が 26%以上を「Ⅲランク」、3%～26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」、不明（すぐに地震が起きることを否定できない）を「Ⅹランク」と表記している。

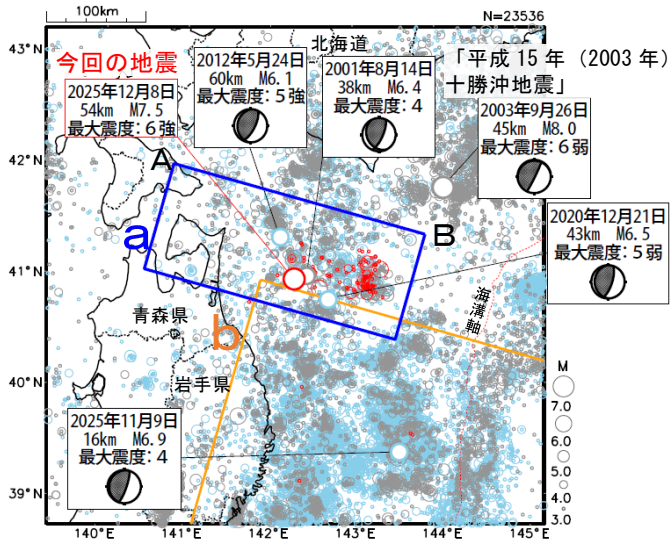
注：GNSSとは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般をしめす呼称である。

12月8日 青森県東方沖の地震

震央分布図

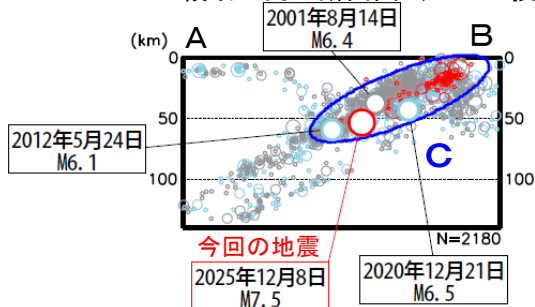
(1997年10月1日～2025年12月9日10時00分、
深さ0～140km、 $M \geq 3.0$)

2025年12月8日以降の地震を赤色で表示、
速報値を含む、図中の発震機構はCMT解

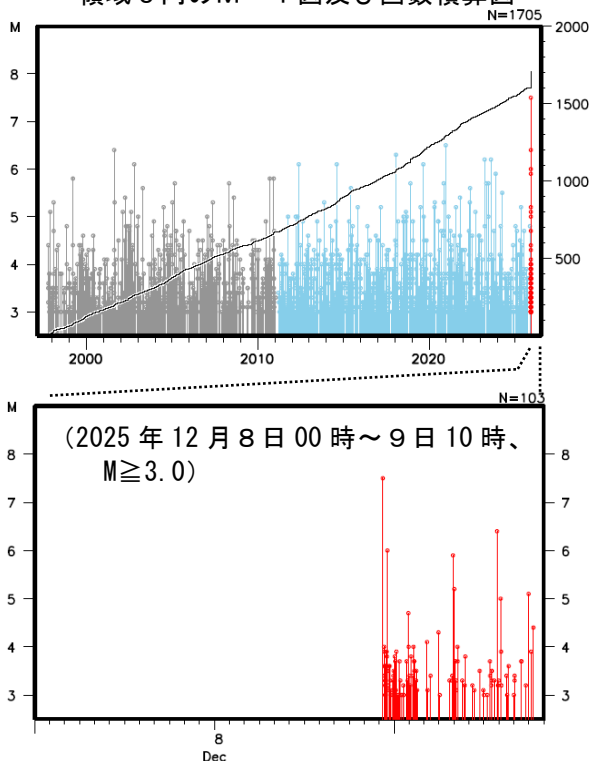


図の領域bは、平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震の余震域を示す

領域a内の断面図（A－B投影）



領域c内のM－T図及び回数積算図



2025年12月8日23時15分に青森県東方沖の深さ54kmでM7.5の地震が発生し、青森県八戸市で震度6強を観測したほか、北海道から近畿地方にかけて震度6弱～1を観測した。また、青森県三八上北で長周期地震動階級3を観測したほか、北海道から関東地方にかけて及び新潟県で長周期地震動階級2～1を観測した。この地震により、岩手県の久慈港（注1）で0.7m（注2）、北海道の浦河（注1）で0.5m（注2）の津波を観測するなど北海道から東北地方にかけての太平洋沿岸を中心に津波を観測した。

気象庁はこの地震に対して、最初の地震波の検知から4.1秒後の23時15分24.0秒に緊急地震速報（警報）を発表した。また、同日23時17分に北海道太平洋沿岸中部、青森県太平洋沿岸及び岩手県に津波注意報を発表し、同日23時23分に北海道太平洋沿岸中部、青森県太平洋沿岸及び岩手県を津波警報に切り替えた。その後、9日02時45分に津波注意報に切り替えて、9日06時20分に津波注意報を解除した。

気象庁は、この地震について震源位置や規模を精査した結果、国の基本計画等に定められている、後発地震への注意を促す情報を発表する基準を満たしていることから、9日02時00分に北海道・三陸沖後発地震注意情報を発表した。

この地震は、発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

この地震の震源付近では、12月8日から12月9日11時までに震度1以上を観測した地震が14回（震度6強：1回、震度4：1回、震度3：2回、震度2：5回、震度1：5回）（注3）発生した。

この地震により、負傷者35人などの被害が生じた（2025年12月9日12時00分現在、総務省消防庁による）。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域c）では、M6.0以上の地震が時々発生している。2012年5月24日に発生したM6.1の地震（最大震度5強）では、青森県で文教施設の一部破損（ガラス破損等）10箇所などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

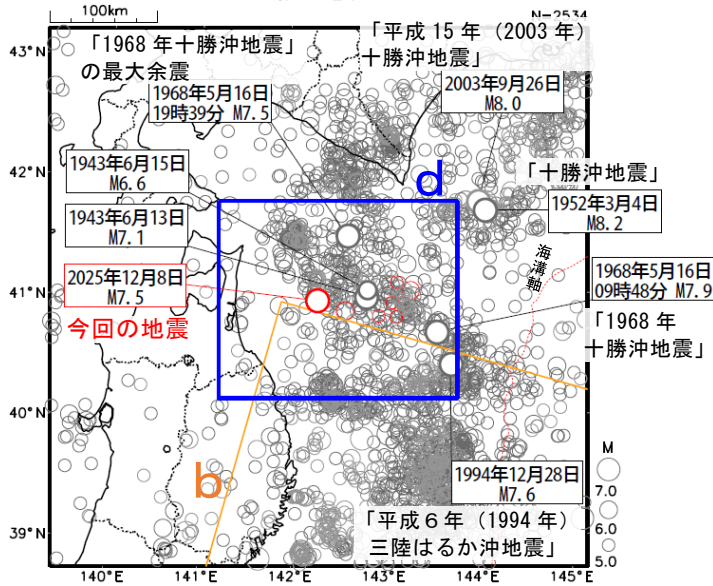
（注1）国土交通省港湾局の観測施設

（注2）観測値は後日の精査により変更される場合がある

（注3）震度1以上を観測した地震の回数は、後日の調査で変更する場合がある

震央分布図

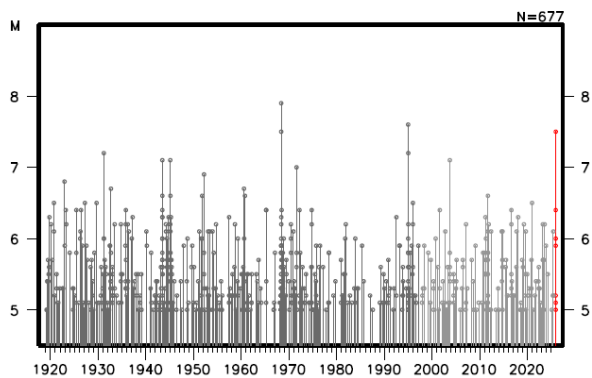
(1919年1月1日～2025年12月9日10時00分、
深さ0～140km、 $M \geq 5.0$)
2025年12月8日以降の地震を赤色で表示、
速報値を含む



図の領域 b は、平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震の余震域を示す

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域 d) では、 $M6.0$ 以上の地震がしばしば発生している。このうち、1968年5月16日09時48分には「1968年十勝沖地震」($M7.9$ 、最大震度5)が発生した。この地震により、青森県八戸〔火力発電所〕で295cm (平常潮位からの高さ) の津波を観測したほか、死者52人、負傷者330人、住家全壊673棟などの被害が生じた。(被害は、日本被害地震総覧による)。

領域 d 内の M-T 図

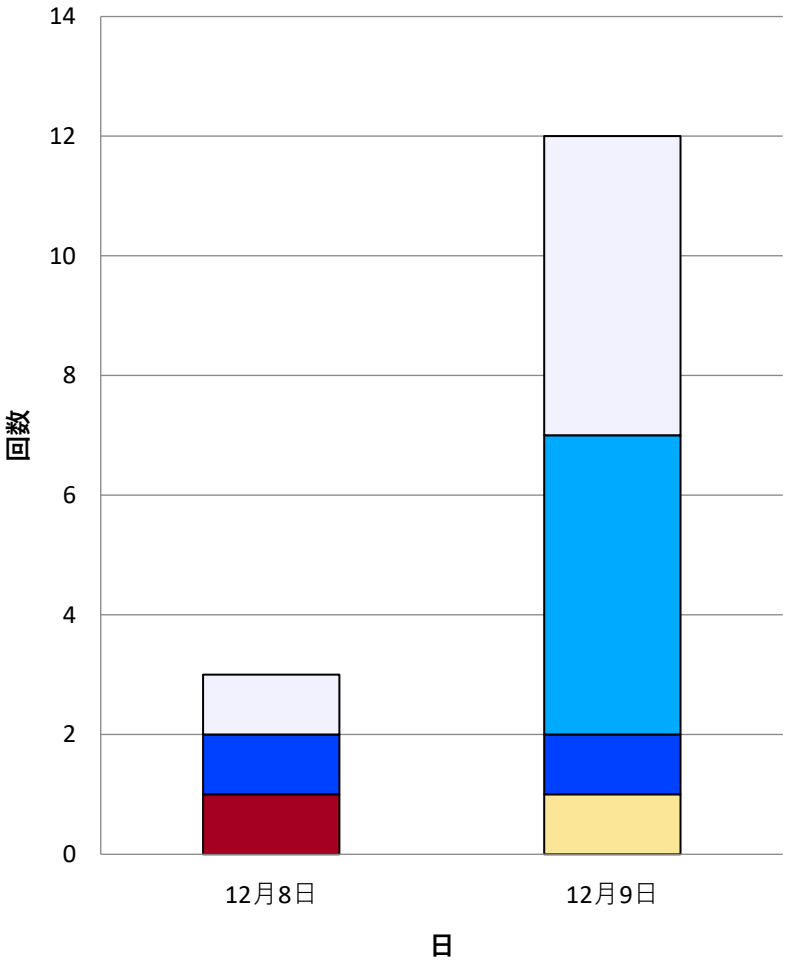


震度1以上の地震の発生状況

【最大震度別・日時別地震回数表】
（12月8日23時～12月9日14時）

日別	最大震度別回数									震度1以上を 観測した回数	
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計
12/8 23時-24時	1	0	1	0	0	0	0	1	0	3	3
12/9 00時-01時	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	5
01時-02時	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6
02時-03時	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8
03時-04時	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	9
04時-05時	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	10
05時-06時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
06時-07時	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	11
07時-08時	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	12
08時-09時	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	13
09時-10時	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	14
10時-11時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
11時-12時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
12時-13時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
13時-14時	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	15
総計	6	5	2	1	0	0	0	1	0	15	

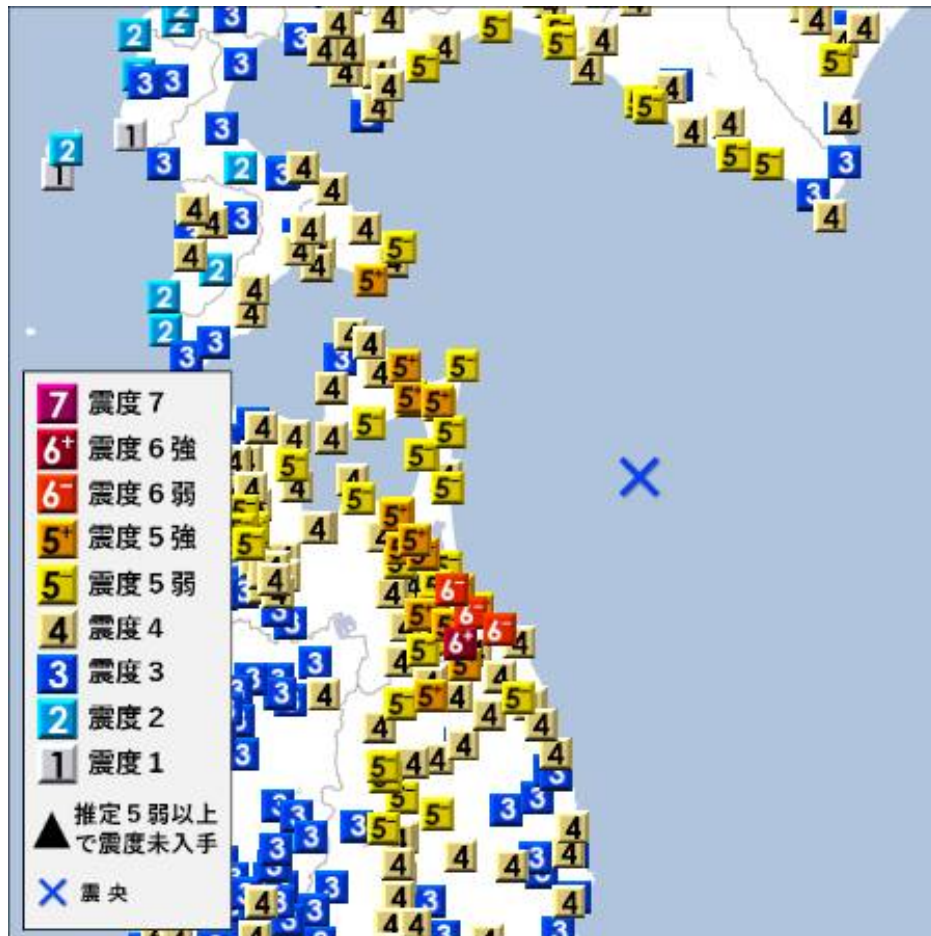
【日別地震回数図】



※掲載している地震回数は速報値であり、後日の調査で変更になることがある。

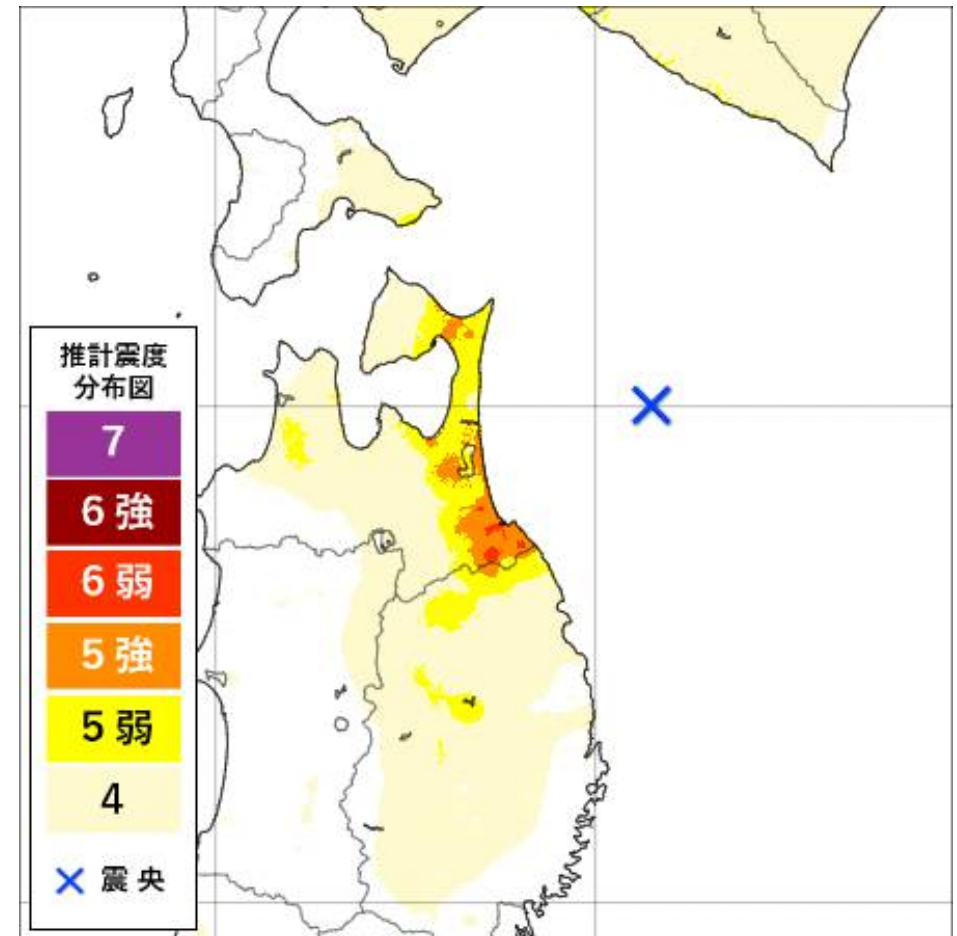
震度分布図・推計震度分布図

【各観測点の震度】



12月8日23時26分発表

推計震度分布図



※留意事項は以下リンクからご確認ください。

最新の情報は、以下のページでご確認ください。

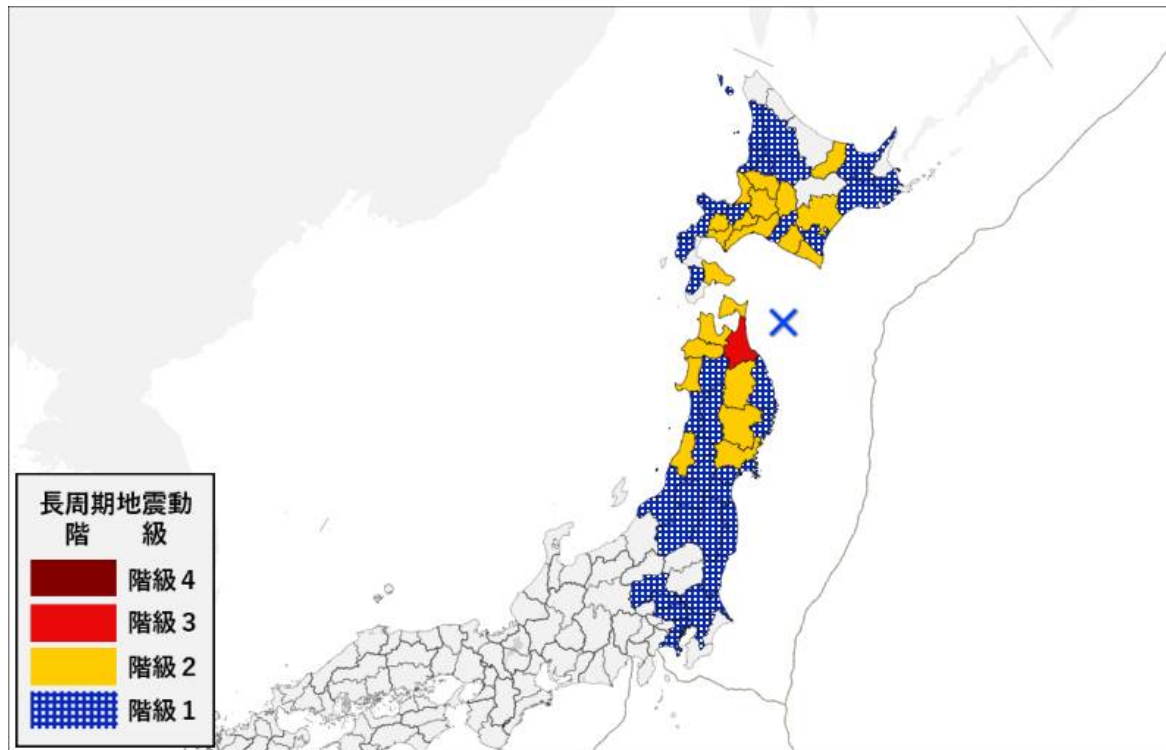
地震情報:https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=earthquake_map

推計震度分布図:https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map

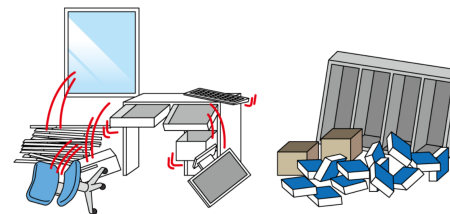
長周期地震動階級の観測状況

階級	地域名称
階級3	青森県三八上北

12月8日23時25分発表



階級4



立っていることができない

階級3



立っていることが困難

階級2



物につかまりたいと感じる

階級1



ほとんどの人が揺れを感じる

最新の情報は、以下のページでご確認ください。

長周期地震動に関する観測情報:<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=ltpgm>

津波の観測状況

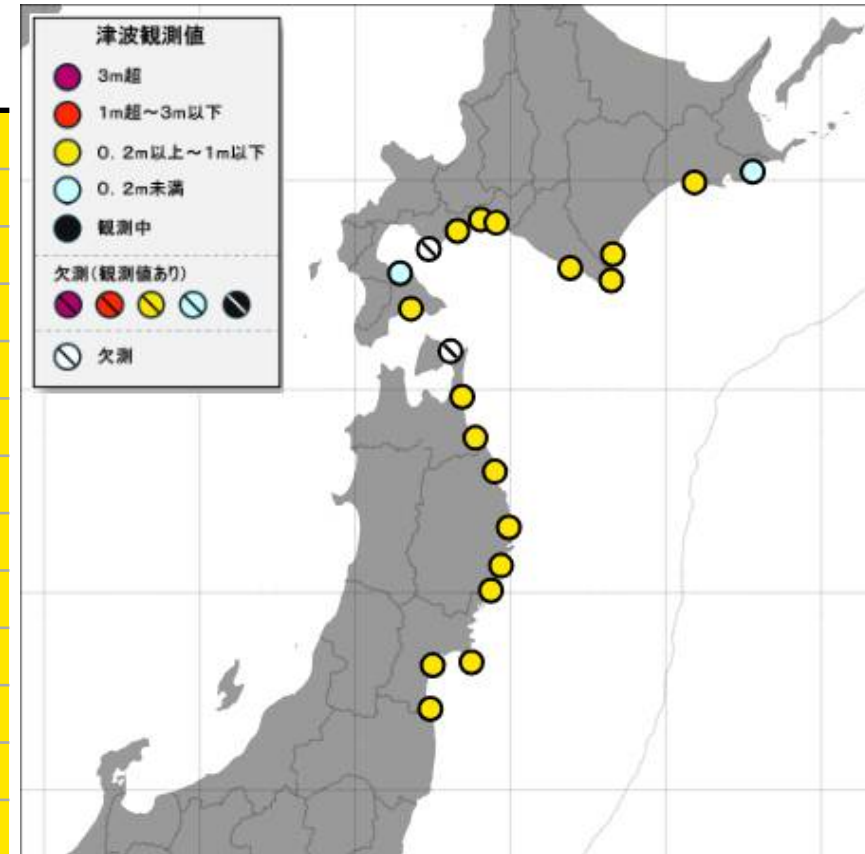
【主な観測点の観測値】

観測点名	該当予報区名	第一波 到達時刻	これまでの 最大波	高さ
久慈港	岩手県	8日23:35	9日01:09	0.7m
浦河	北海道太平洋沿岸中部	8日23:38	9日00:38	0.5m
むつ小川原港	青森県太平洋沿岸	8日23:19	8日23:43	0.4m
八戸港	青森県太平洋沿岸	8日23:48	9日00:53	0.4m
十勝港	北海道太平洋沿岸中部	9日00:00	9日01:30	0.3m
えりも町庶野	北海道太平洋沿岸中部	8日23:45	9日00:16	0.3m
苫小牧西港	北海道太平洋沿岸西部	--	9日05:33	0.3m
釧路	北海道太平洋沿岸東部	--	9日03:46	0.2m
苫小牧東港	北海道太平洋沿岸西部	9日00:05	9日01:28	0.2m
白老港	北海道太平洋沿岸西部	8日23:56	9日01:22	0.2m
函館	北海道太平洋沿岸西部	9日00:13	9日01:50	0.2m
宮古	岩手県	8日23:43	9日00:37	0.2m
釜石	岩手県	8日23:47	9日01:54	0.2m
大船渡	岩手県	8日23:57	9日00:07	0.2m
石巻市鮎川	宮城県	9日00:18	9日00:42	0.2m

※大津波警報または津波警報を發表中で、観測された津波の高さが低い間は、数値ではなく「観測中」と發表します。

※検潮所での津波の高さです。沿岸の地形の影響などにより、局所的に高くなることもあります。

12月9日06時22分発表

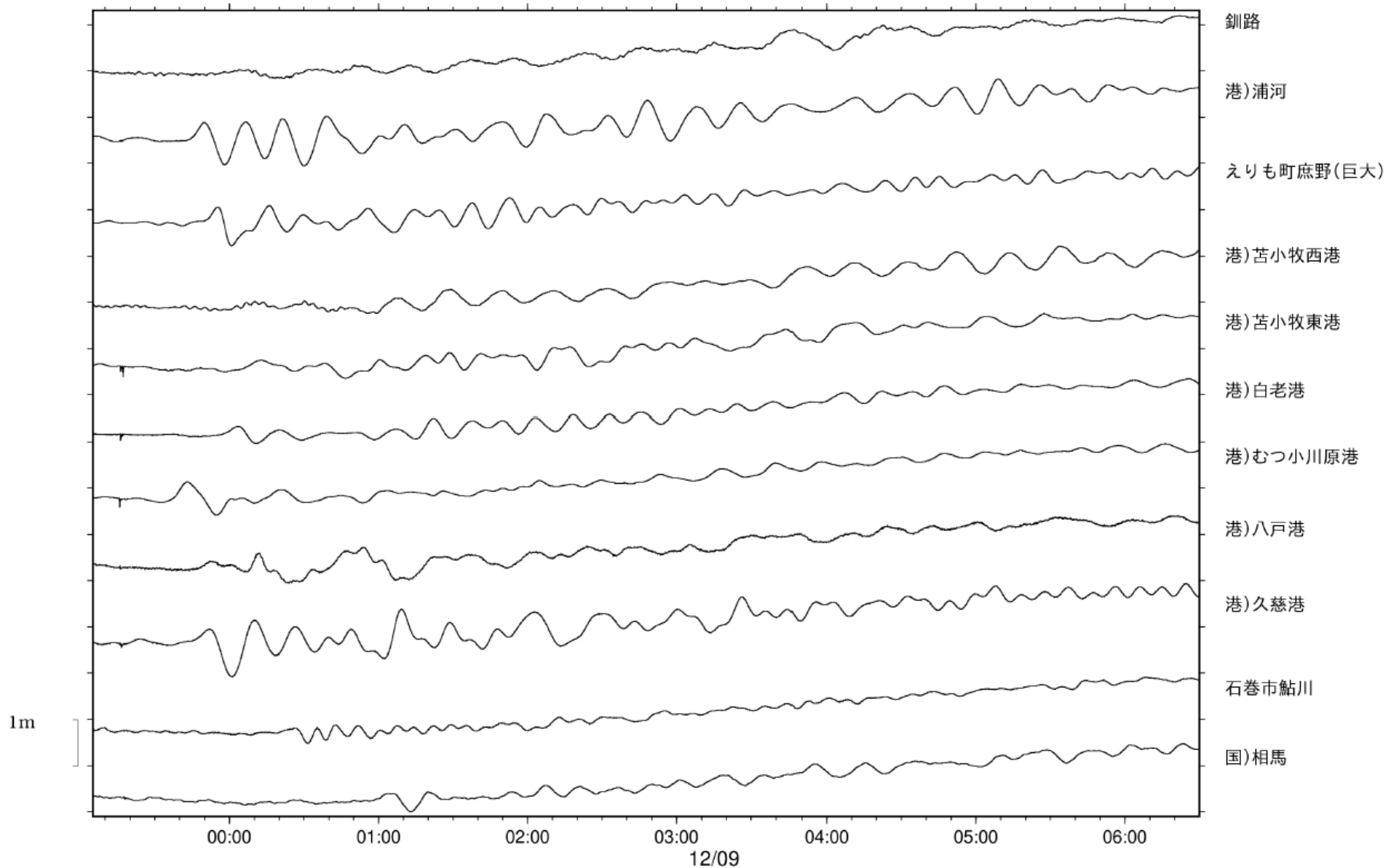


津波の観測ができなくなっている観測点
室蘭港(北海道太平洋沿岸西部)
むつ市関根浜(青森県太平洋沿岸)

最新の情報は、以下のページでご確認ください。

津波の観測状況: <https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#elem=info&contents=tsunami>

2025年12月8日23時15分 青森県東方沖の地震（M7.5）に伴う津波観測状況 (2025年12月9日06時30分現在)



港)は国土交通省港湾局、国)は国土地理院、記載のないものは気象庁の観測点を示す。

気象庁作成

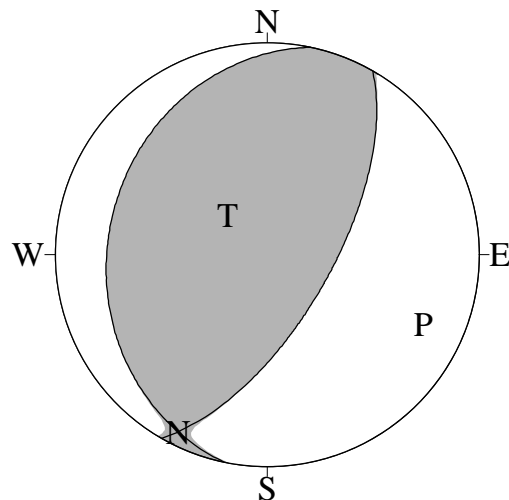
発震機構解

12082315

西北西 - 東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型

[CMT解]

Mw=7.4



下半球等積投影法で描画

P：圧力軸の方向

T：張力軸の方向

セントロイドの位置

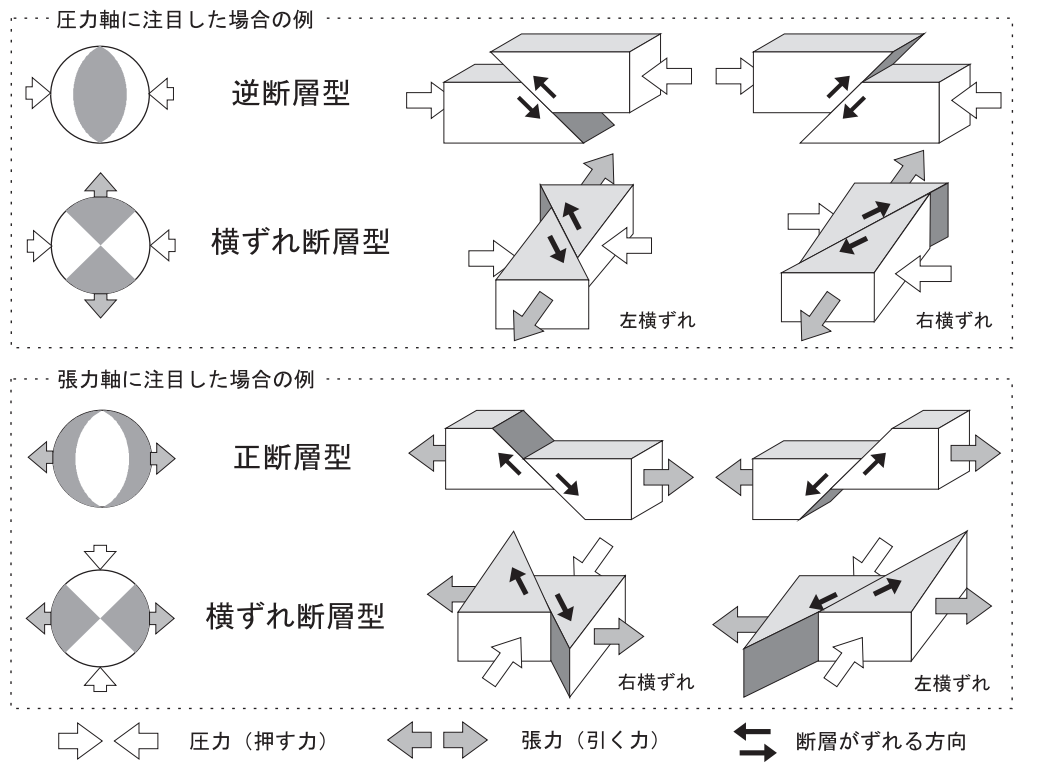
北緯 40度48分

東経 142度18分

深さ 約40km

セントロイドの位置とは、
地震の断層運動を1点で
代表させた場合の位置。

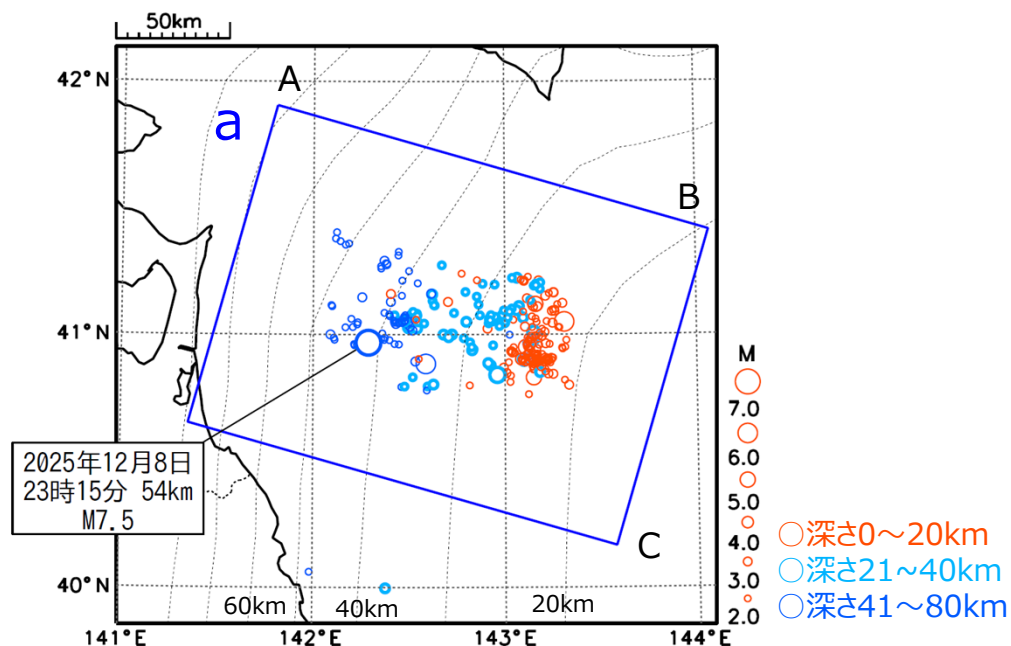
発震機構解 [CMT解] について



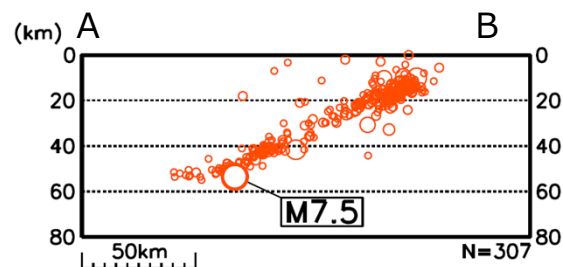
12月8日 青森県東方沖の地震（今回の地震活動）

震央分布図

2025年12月8日20時00分～9日09時00分、深さ0～80km、 $M \geq 2.0$



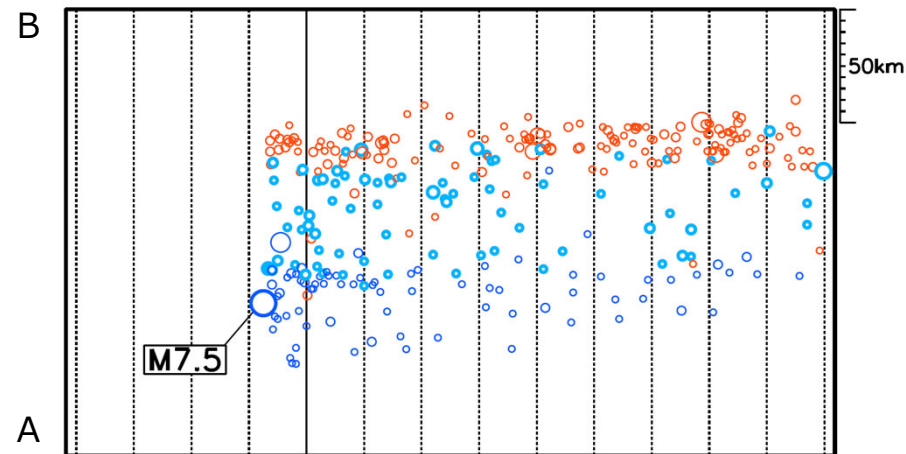
領域a内の断面図（A-B投影）



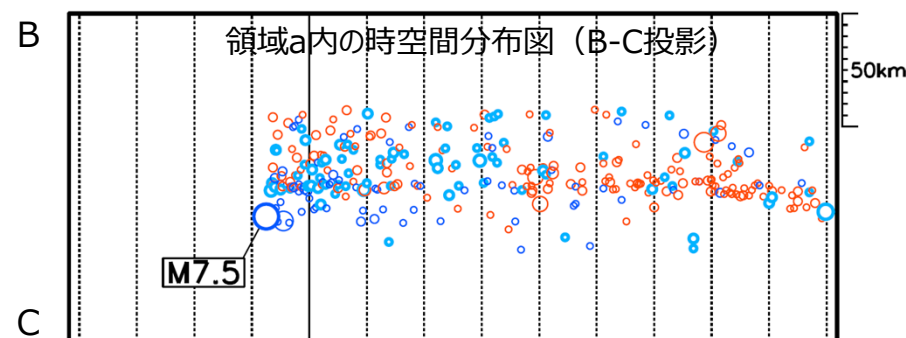
12月8日23時15分M7.5の地震以外は速報値

震央分布図中の黒色破線は、Kita et al. (2010)およびNakajima and Hasegawa (2006)による太平洋プレート上面のおよその深さを示す

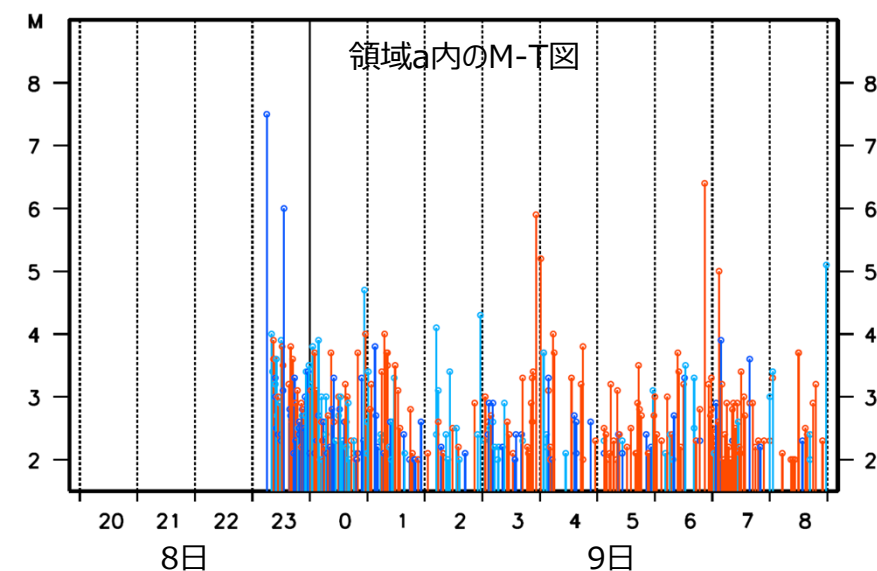
領域a内の時空間分布図（A-B投影）



領域a内の時空間分布図（B-C投影）



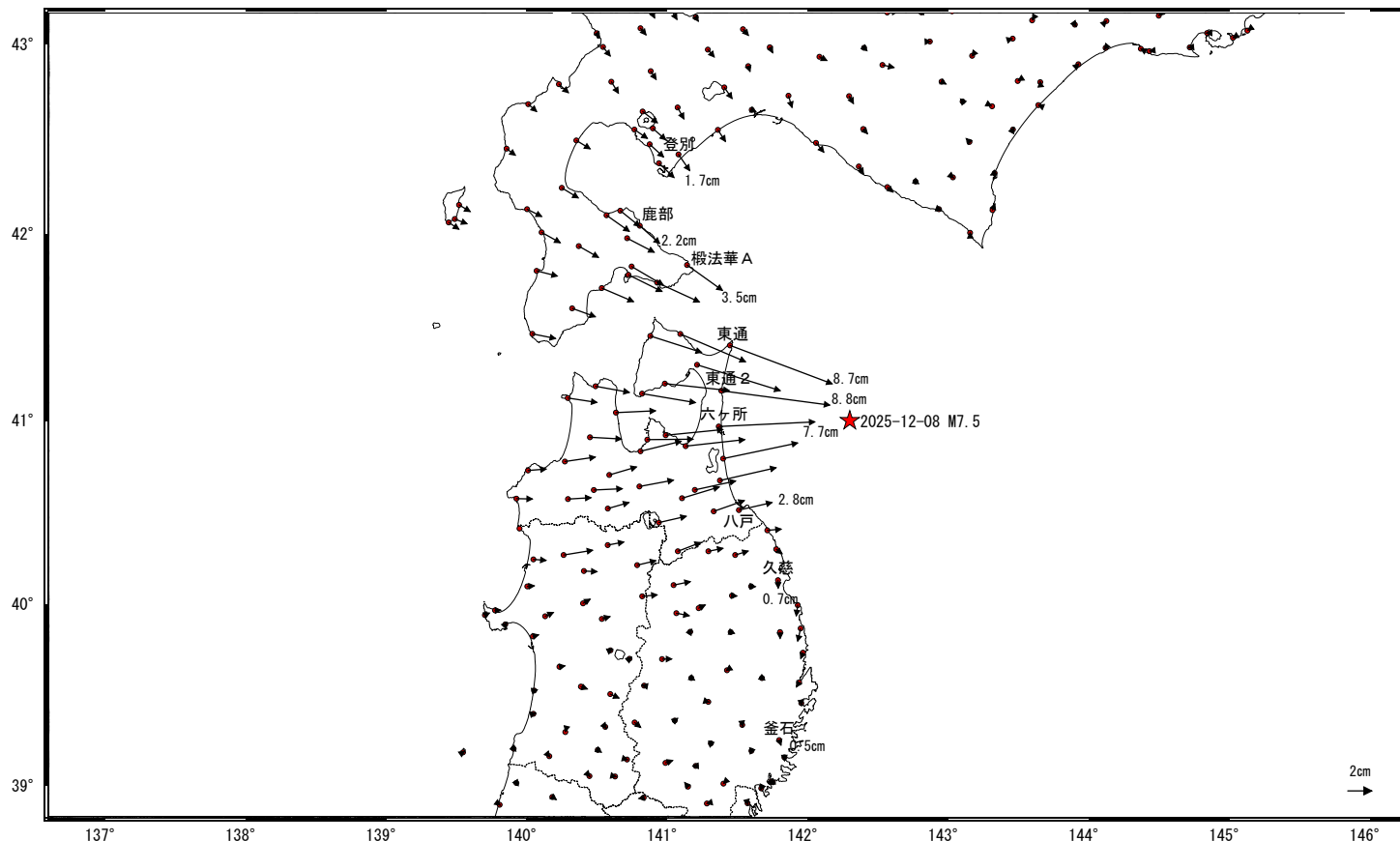
領域a内のM-T図



青森県東方沖の地震(12月8日 M7.5)の観測データ (暫定)

地殻変動(水平)

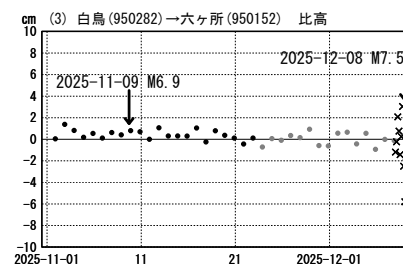
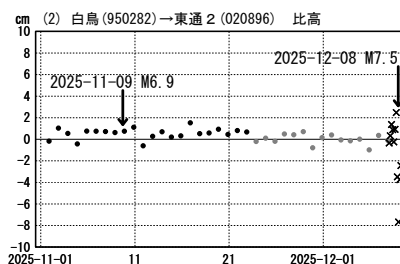
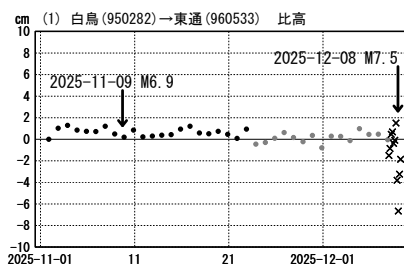
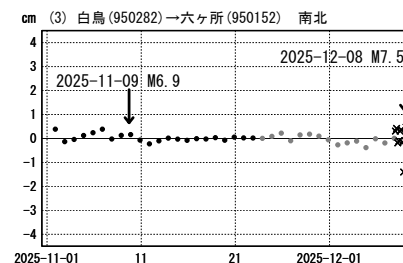
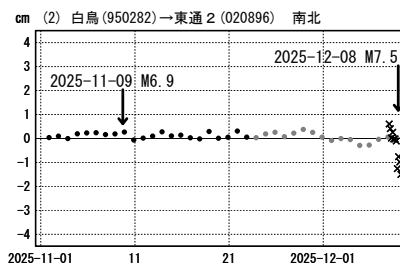
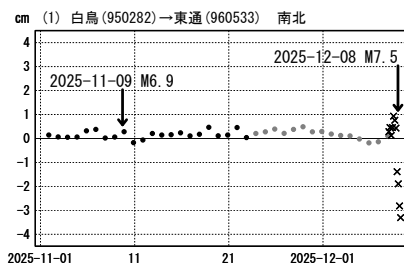
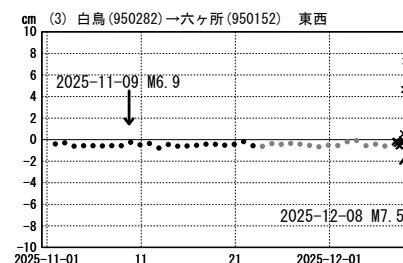
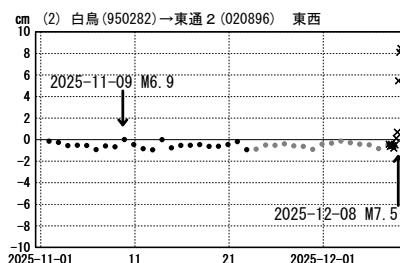
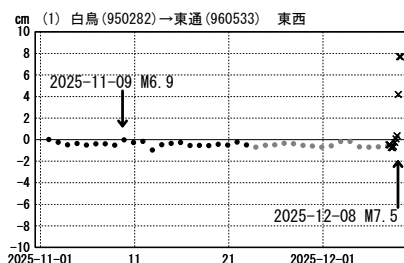
基準期間: 2025-12-01 09:00~2025-12-08 08:59 [R5:速報解]
比較期間: 2025-12-09 03:00~2025-12-09 08:59 [Q5:迅速解]



★ 震央
☆ 固定局: 白鳥 (950282) (岐阜県)

成分変化グラフ

期間: 2025-11-01~2025-12-09 JST

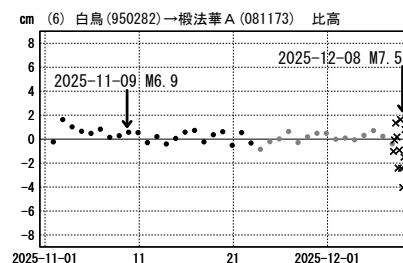
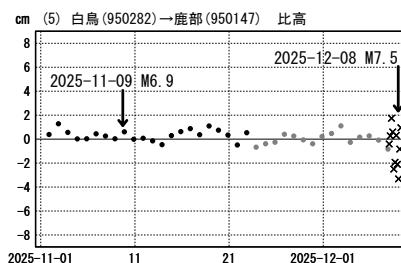
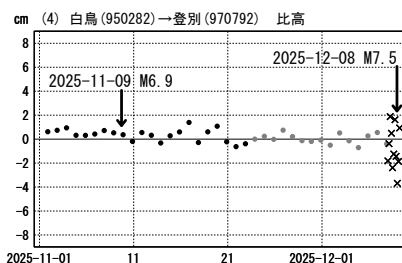
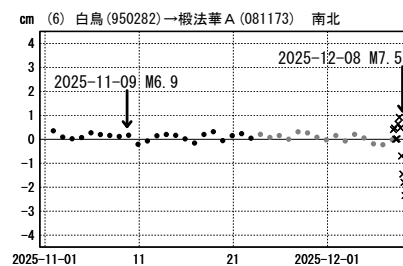
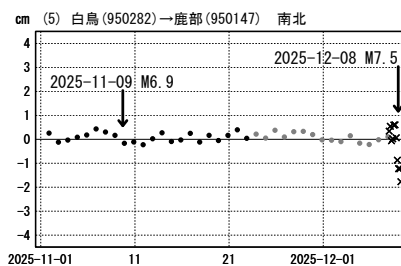
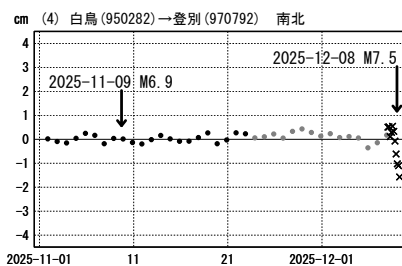
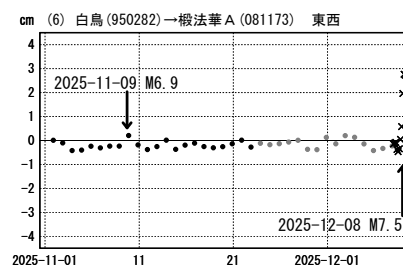
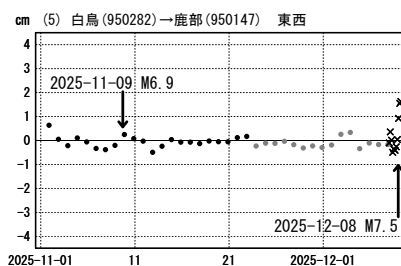
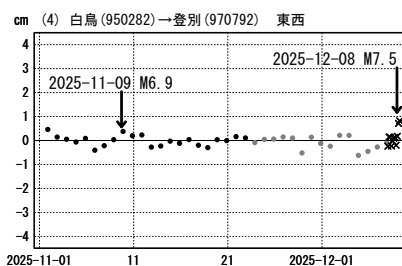


● — [F5:最終解] ● — [R5:速報解] × — [Q5:迅速解]

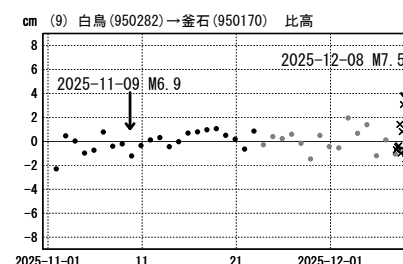
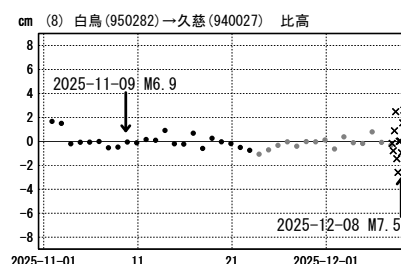
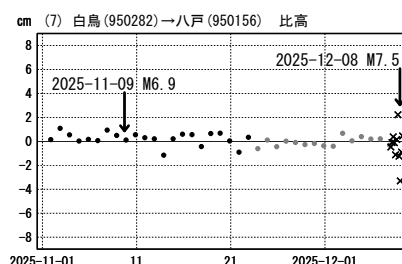
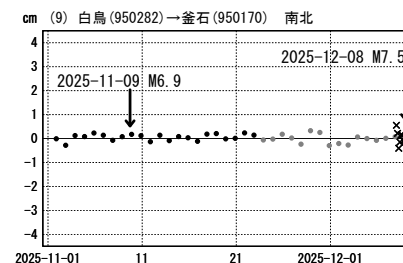
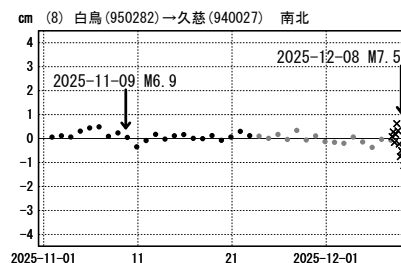
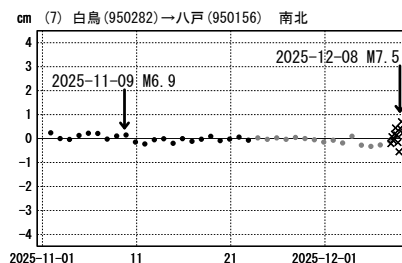
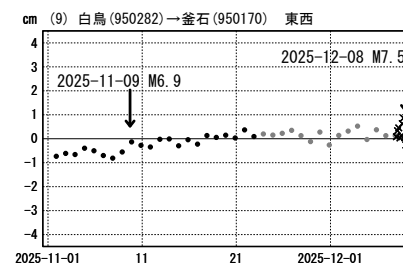
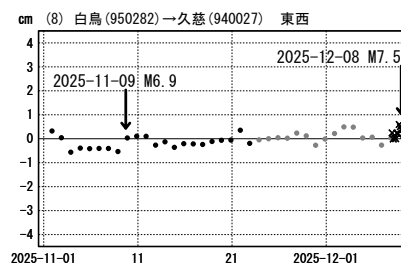
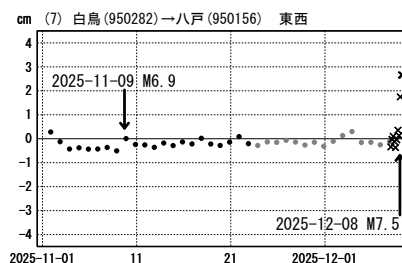
青森県東方沖の地震(12月8日 M7.5)の観測データ (暫定)

成分変化グラフ

期間: 2025-11-01~2025-12-09 JST



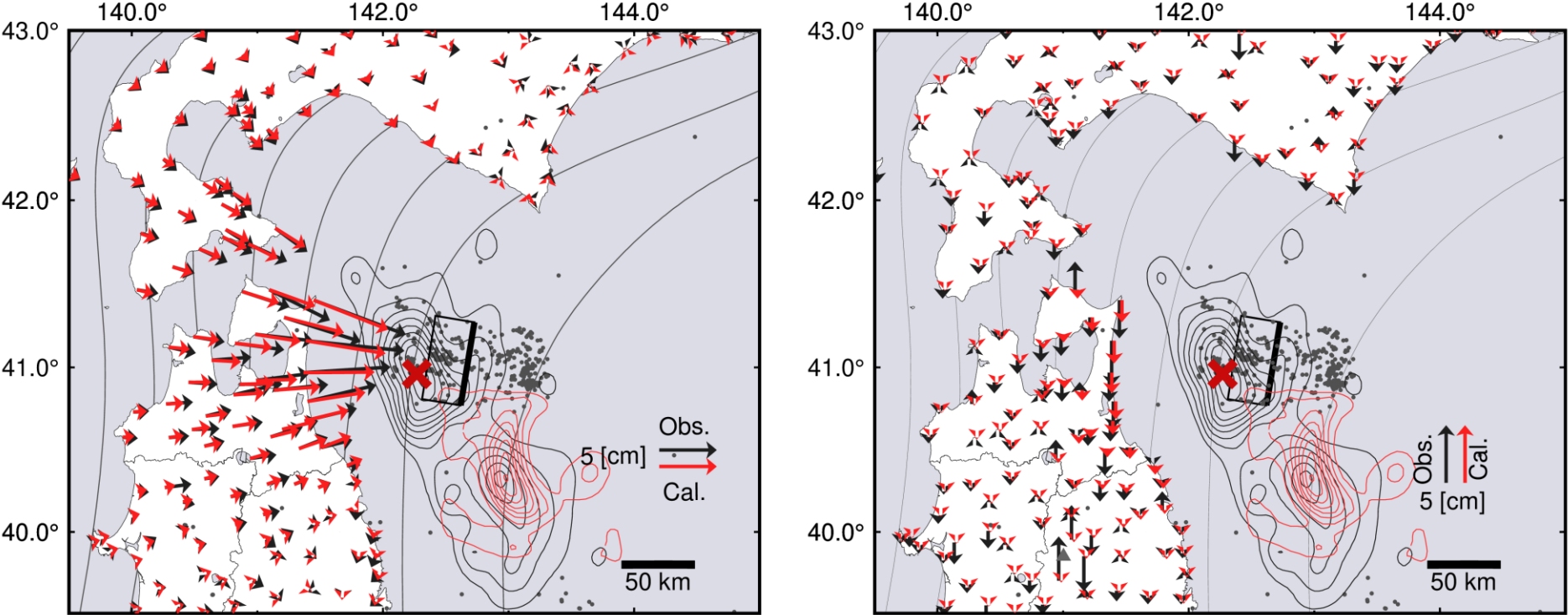
期間: 2025-11-01~2025-12-09 JST



●---[F5:最終解] ●---[R5:速報解] ×---[Q5:迅速解]

青森県東方沖の地震（12月8日 M7.5）の断層モデル（暫定）

基準期間：2025年12月6日21:00～12月8日20:59 JST（Q5解：迅速解）
比較期間：2025年12月9日00:00～12月9日08:59 JST（Q5解：迅速解）固定局：猿払（950101）



Lat. [deg.]	Lon. [deg.]	Depth [km]	Strike [deg.]	Dip [deg.]	Length [km]	Rake [deg.]	Slip [m]
41.272 (0.238)	142.728 (0.143)	27.846 (17.368)	188.282 (20.974)	21.113 (12.755)	56.366 (11.146)	76.118 (22.890)	2.400 (0.838)

Mw: 7.41 (1.72×10^{20} Nm)
VR: 76.1 %
Mwの計算においては剛性率40GPaを仮定した。
震源断層モデルのパラメータはマルコフ連鎖モンテカルロ法を用いて推定した。
位置は断層の左上端を示す。括弧内は誤差（1 σ ）を示す。

断層長さ：断層幅は3:2に近づくように拘束した。
点は震源分布（気象庁一元化震源）：2025年12月8日～9日
太平洋プレート境界面はIwasaki et al.(2015) を参照した。
黒コンターは1968年十勝沖地震のアスペリティ、赤コンターは平成6年（1994年）三陸はるか沖地震のアスペリティ（永井・他, 2001）を示す。

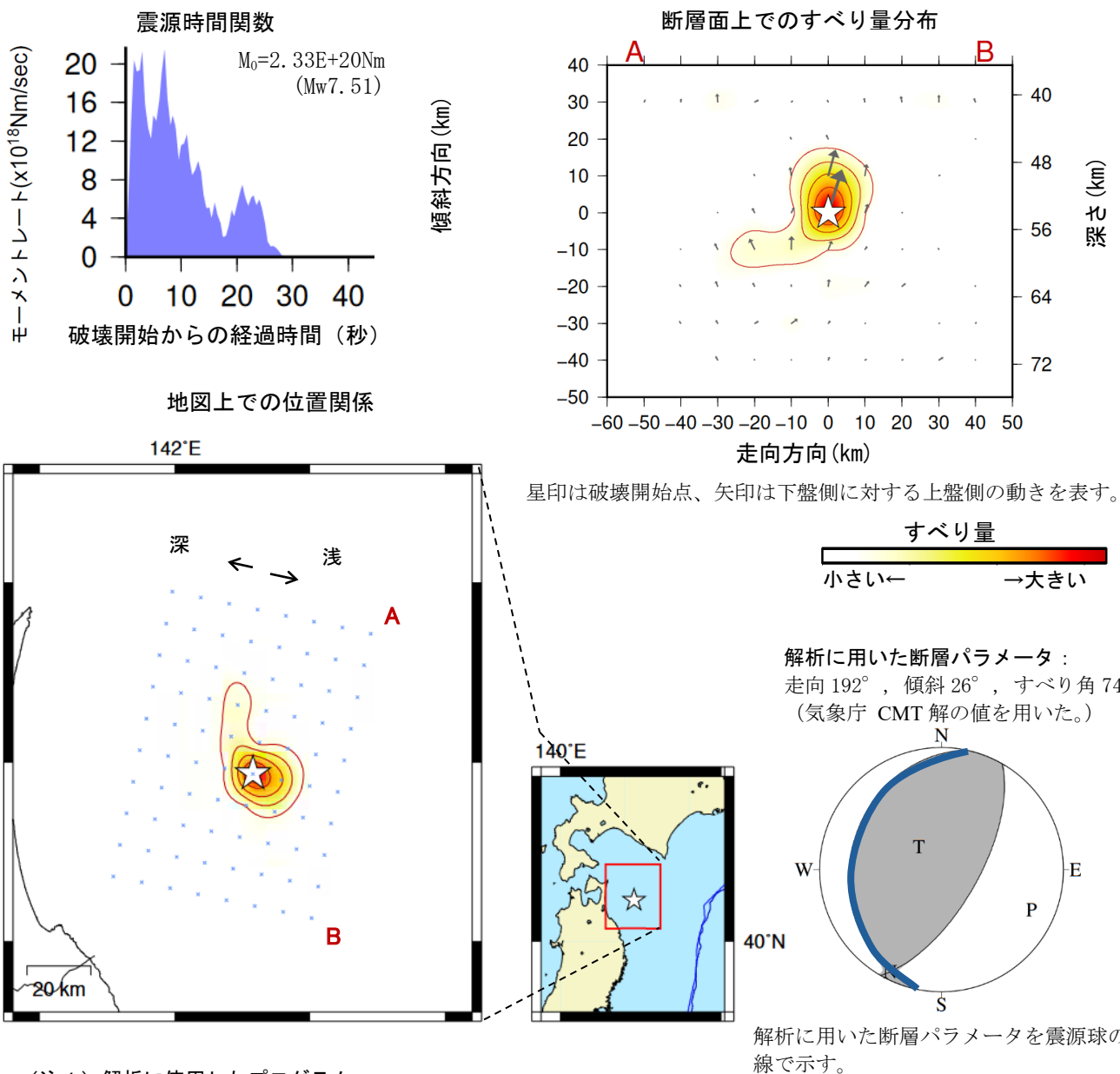
2025 年 12 月 8 日 青森県東方沖の地震
— 遠地実体波による震源過程解析（速報） —

2025 年 12 月 8 日 23 時 15 分（日本時間）に青森県東方沖で発生した地震について、EarthScope Consortium のデータ管理センター（DMC）より広帯域地震波形成録を取得し、遠地実体波を用いた震源過程解析（注 1）を行った。

破壊開始点は、気象庁による震源の位置 ($40^{\circ} 58.0' \text{ N}$, $142^{\circ} 17.2' \text{ E}$ 、深さ 54km) とした。断層面は、気象庁 CMT 解の 2 枚の節面のうち、北北東—南南西方向の節面 (走向 192° 、傾斜 26° 、すべり角 74°) を仮定して解析した。最大破壊伝播速度は 3.0 km/s とした。理論波形の計算には CRUST2.0 (Bassin et al., 2000) および IASP91 (Kennett and Engdahl, 1991) の地下構造モデルを用いた。主な結果は以下のとおり (この結果は暫定であり、今後更新することがある)。

- ・ 主な破壊領域は走向方向に約 30km、傾斜方向に約 30km であった。
- ・ 主なすべりは破壊開始点周辺に広がり、最大すべり量は 5.3m であった（周辺の構造から剛性率を 65GPa として計算）。
- ・ 主な破壊継続時間は約 30 秒であった。
- ・ モーメントマグニチュード (M_w) は 7.5 であった。

結果の見方は、https://www.data.jma.go.jp/egev/data/world/about_srcproc.html を参照

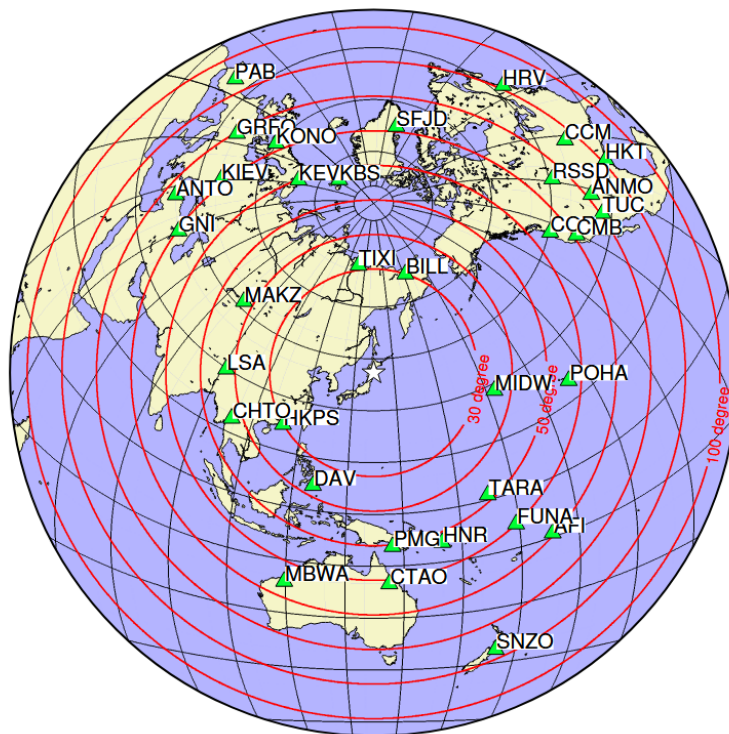
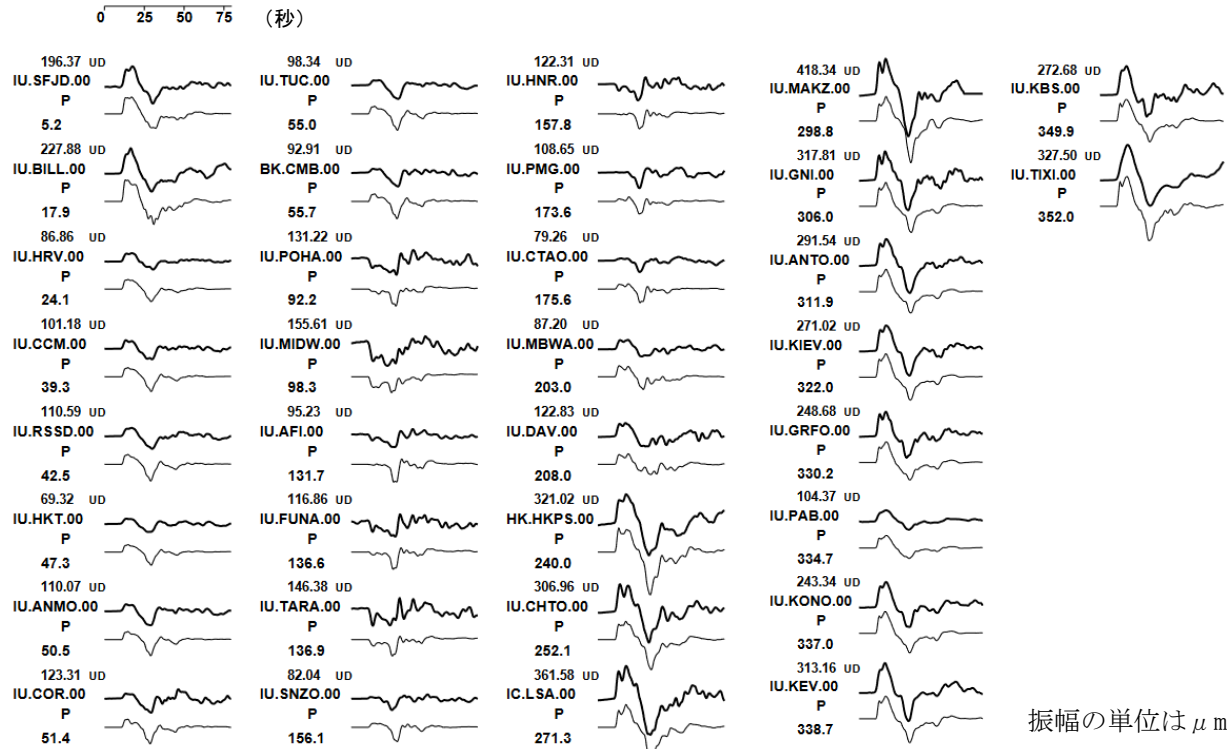


(注1) 解析に使用したプログラム

M. Kikuchi and H. Kanamori, Note on Teleseismic Body-Wave Inversion Program,
<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/ETAL/KIKUCHI/>

作成日：2025/12/9

観測波形（上：0.01Hz-0.5Hz）と理論波形（下）の比較



震央距離 $30^{\circ} \sim 100^{\circ}$ ※¹の31観測点※²（P波：34、SH波：0）を使用。

※¹：近すぎると理論的に扱いづらくなる波の計算があり、逆に遠すぎると、液体である外核を通るため、直達波が到達しない。そのため、評価しやすい距離の波形記録のみを使用。

※²：EarthScope Consortiumより取得した広帯域地震波形記録を使用。

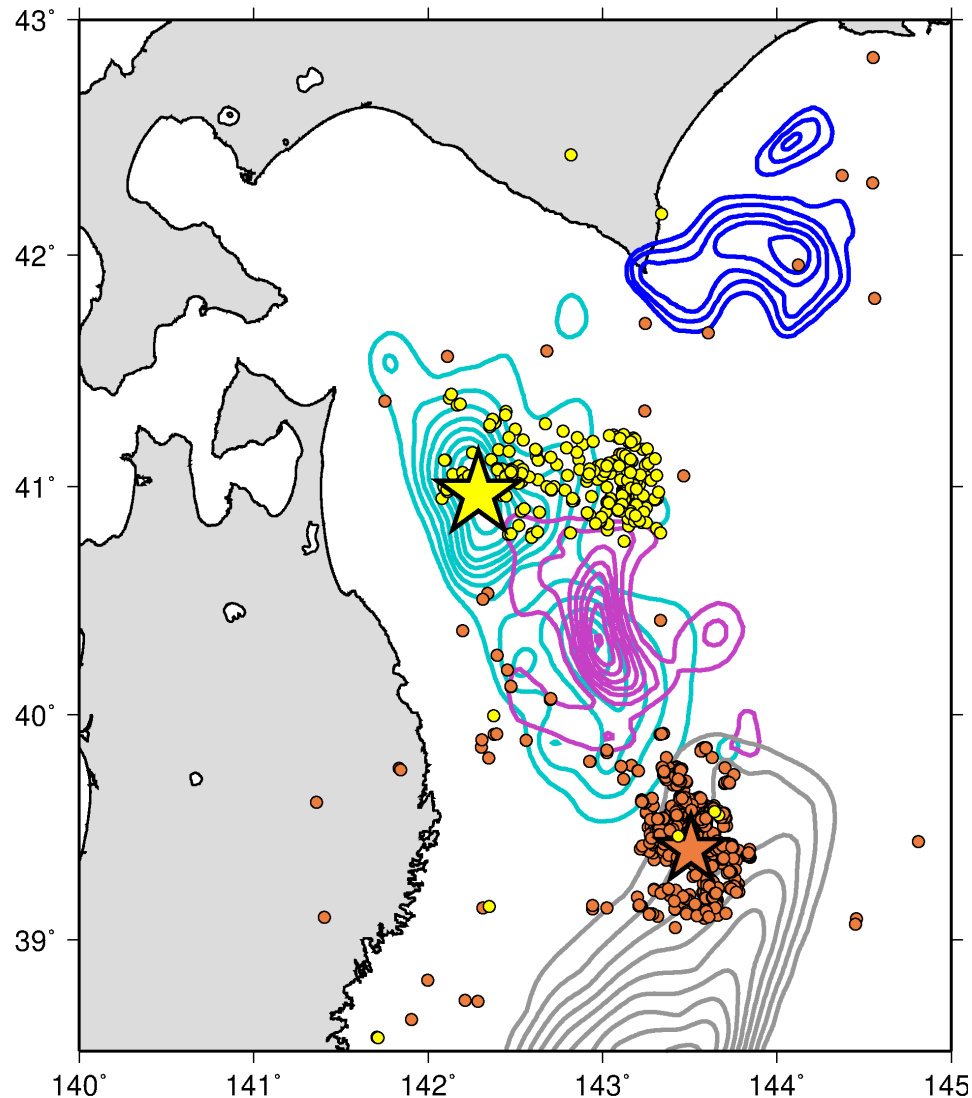
参考文献









Bassin, C., Laske, G. and Masters, G., 2000, The Current Limits of Resolution for Surface Wave Tomography in North America, EOS Trans AGU, 81, F897.

Kennett, B. L. N. and E. R. Engdahl, 1991, Traveltimes for global earthquake location and phase identification, Geophys. J. Int., 105, 429-465.

作成日：2025/12/9

過去の地震の震源域と今回の地震の位置関係

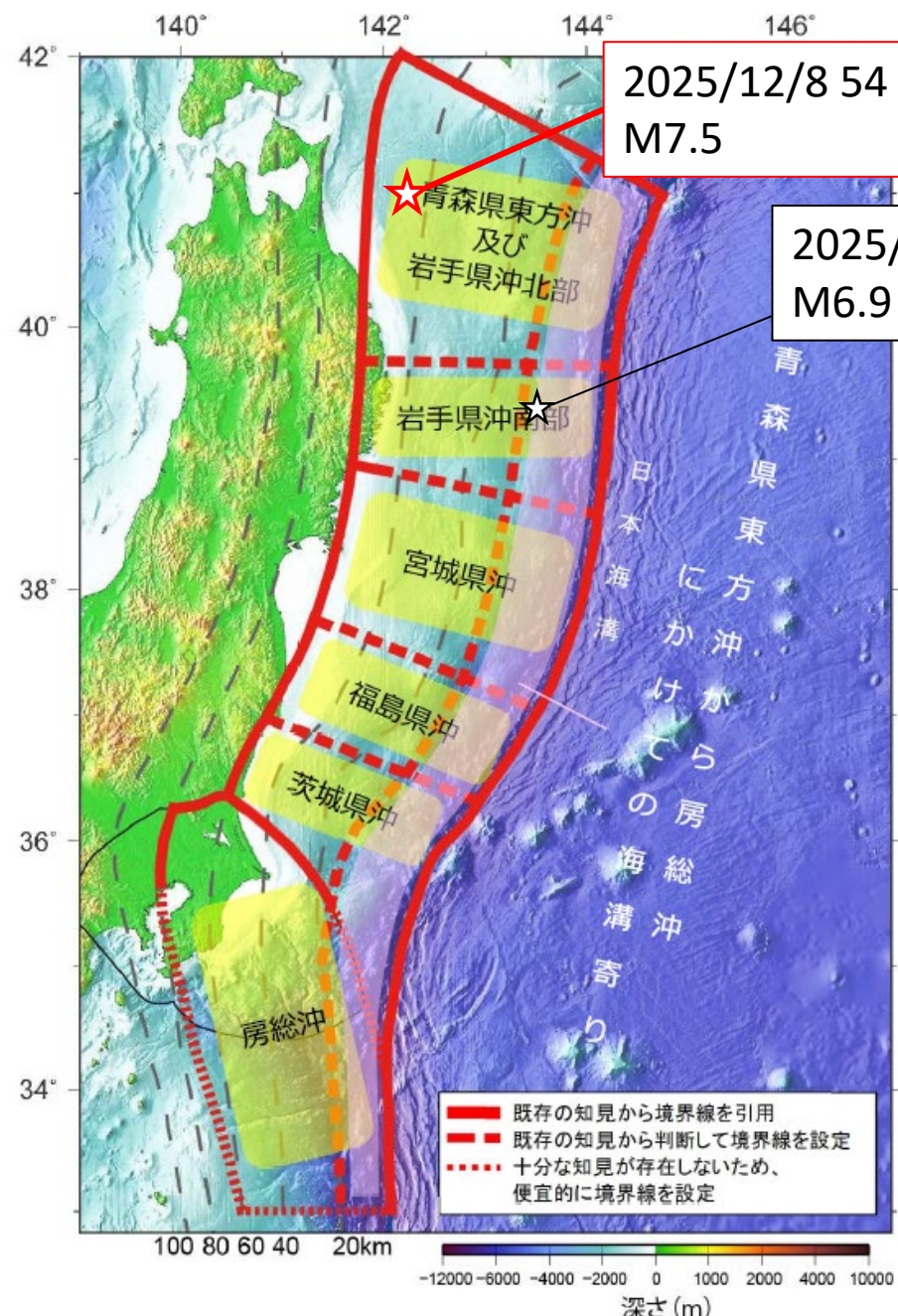


-  1968年十勝沖地震（永井・他, 2001）
-  1994年三陸はるか沖地震（永井・他, 2001）
-  2003年十勝沖地震（Yamanaka and Kikuchi, 2003）
-  2011年東北地方太平洋沖地震（Yoshida et al. 2011）
-  2025年11月9日三陸沖の地震（M6.9）
-  2025年11月9日17時～1週間の地震活動（ $M \geq 2$ ）
-  2025年12月8日青森県東方沖の地震（M7.5）
-  2025年12月8日23時～9日9時の地震活動（ $M \geq 2$ ）

※今回の地震については速報値を含む

長期評価の対象領域と今回の地震

事務局資料



青森県東方沖及び岩手県沖北部、宮城県沖以外の領域については、ほぼ同一の震源域で繰り返し発生している規模の大きな地震は知られていない。超巨大地震(東北地方太平洋沖型)については、宮城県沖を必ず含み、隣接する領域(岩手県沖南部または福島県沖)の少なくとも一方にまたがり、場合によっては茨城県沖まで破壊が及ぶ可能性のある地震であると考えた。

～
評価対象領域の区域分けに関して、大地震の記録が比較的多く残っている青森県東方沖及び岩手県沖北部については、1968年十勝沖地震を当該海域で発生する代表例と考えて設定した。

今後30年以内の地震発生確率 (2019年1月1日時点)

事務局資料
将来発生する地震の評価

評価対象地震	発生領域	規模	地震発生確率	評価に使用した地震	地震後経過率 ^{注2}	第二版の評価
超巨大地震 (東北地方太平洋沖型)	岩手県沖南部～茨城県沖	M9.0程度	ほぼ0%	過去約3000年間の5回	0.01	ほぼ0%
プレート間 巨大地震	青森県東方沖及び岩手県沖北部	M7.9程度	5～30%	1677年以降の4回	0.52	5～30%
	宮城県沖	M7.9程度	20%程度 ^{注4}	1793年以降の3回 ^{注1}	—	ほぼ0%
ひとまわり小さい プレート間地震	青森県東方沖及び岩手県沖北部	M7.0～7.5程度	90%程度以上	1923年以降の10回 ^{注1}	—	90%程度
	岩手県沖南部	M7.0～7.5程度	30%程度	1923年以降の1回 ^{注1}	—	確率未計算
	宮城県沖	M7.0～7.5程度	90%程度 ^{注4}	1923年以降の6～7回 ^{注1}	—	本評価で領域を統合
	宮城県沖の陸寄り (宮城県沖地震)	M7.4前後	50%程度	1897年以降の4回	0.21	不明
	福島県沖	M7.0～7.5程度	50%程度	1923年以降の2回 ^{注1}	—	10%程度
	茨城県沖	M7.0～7.5程度	80%程度 ^{注4}	1923年以降の5回 ^{注1}	—	90%程度以上
海溝寄りのプレート間地震(津波地震等)	青森県東方沖から房総沖にかけての海溝寄り	Mt8.6～9.0 ^{注3}	30%程度 ^{注4}	1600年以降の4回 ^{注1}	—	30%程度
沈み込んだプレート内の地震	青森県東方沖及び岩手県沖北部～茨城県沖	M7.0～7.5程度	60～70% ^{注4}	1923年以降の3～4回 ^{注1}	—	確率未計算
海溝軸外側の地震	日本海溝の海溝軸外側	M8.2前後	7% ^{注4}	1600年以降の1回 ^{注1}	—	4～7%

^{注1} 東北地方太平洋沖地震より後の期間は除いた
^{注2} 地震後経過率＝最新発生時期からの経過時間÷平均発生間隔
—は時間が経過しても地震の起こりやすさが変わらないと仮定した地震
^{注3} Mtは津波マグニチュード
^{注4} 本評価で評価対象領域・地震を再編したため、場所と規模の範囲が異なり、厳密には第二版と対応しない

Ⅲランク(高い)
Ⅱランク(やや高い)
Ⅰランク
Ⅹランク

: 26%以上
: 3～26%未満
: 3%未満
: 不明

震源周辺における規模の近い地震の続発事例について

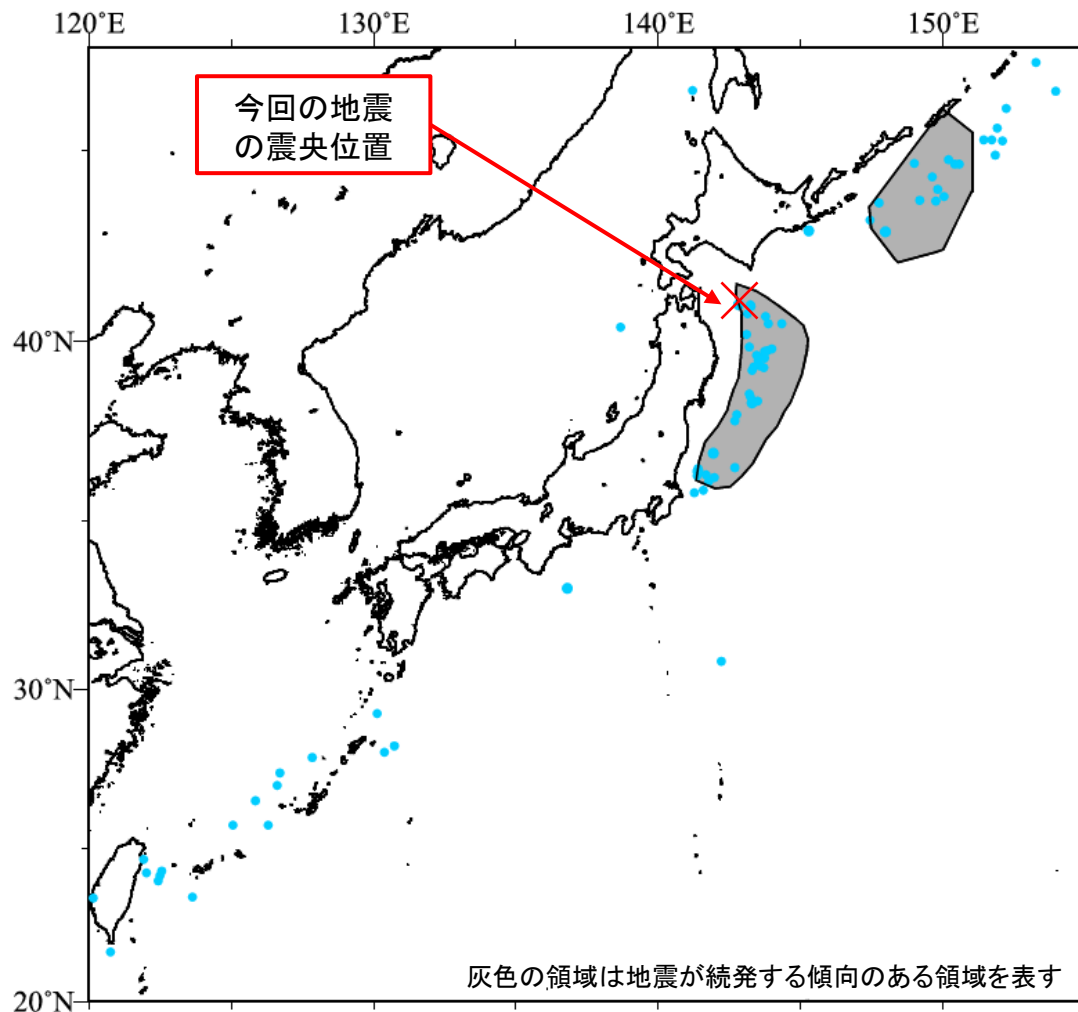
(参考資料)

事務局資料

大きな地震発生後に規模の近い地震が続発した過去の事例 (海域)

1923年～2016年6月、海域で発生した深さ0～80km、マグニチュード6.0以上、規模の差が0.5以内もしくは同規模以上の地震が発生した地震を●で表示

気象庁報道発表資料「令和7年12月8日23時15分頃の青森県東方沖の地震について」(<https://www.jma.go.jp/jma/press/2512/09a/kaisetsu202512090115.pdf>)から抜粋



灰色の領域は地震が続発する傾向のある領域を表す

規模が近い地震が続発した過去の事例は、地震調査研究推進本部地震調査委員会「大地震後の地震活動の見通しに関する情報のあり方」報告書による。

■日本全国での過去の事例

海域で発生した大きな地震の場合、過去には規模が近い地震が続発した事例があります(左図の●印の地震)。

特に、左図の灰色の領域(海域の続発領域)内で大きな地震が発生した場合は、それ以外の海域で発生した場合に比べて、規模の近い地震や、より規模の大きな地震が続発しやすい傾向があります。

■今回の地震の周辺における過去の事例

今回の地震の周辺では、1943年に青森県東方沖で発生したM7.1の地震の2.2日後にM6.6の地震が発生した事例があります。

北海道・三陸沖後発地震注意情報の概要

昨日（8日）23時15分頃に青森県東方沖で地震発生
モーメントマグニチュード※：7.4

今回の地震の発生により、北海道の根室沖から東北地方の三陸沖にかけての巨大地震の想定震源域では、新たな大規模地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まっていると考えられます。

今後、もし大規模地震が発生すると、巨大な津波が到達したり、強い揺れとなる可能性があります。

なお、新たな大規模地震が発生する可能性は平常時と比べると高まっていますが、過去の世界的な事例を踏まえるとその確率は百回に1回程度と低く、特定の期間中に大規模地震が必ず発生することをお知らせするものではありません。

※モーメントマグニチュード（Mw）は、震源断層のずれの規模を精査して得られるもので、地震発生直後に地震波の最大振幅から計算し津波警報等や地震情報の発表に用いるマグニチュードとは異なります。北海道・三陸沖後発地震注意情報は、Mw 7.0 以上の地震が想定震源域に影響を与える場所で発生した場合に発表されます。

今回の地震と想定震源域の位置関係

